



# さわやか トカラ情報

〒892-0822  
鹿児島市泉町13番13号  
TEL099-227-9771

発行  
十島村教育委員会

## 【良か馬は風に向かって立つ】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

明けましておめでとうございます。今年は午年（うまどし）で、しかも丙午だそうす。60年前迷信からこの年に生まれた女性は・・・と言われていましたが、逆に人数が少ない分、受験や就職の時に有利だったと思います。冒頭の「良か馬は風に向かって立つ」とは、種子島の中種子で昔から言い伝えられていることわざです。強い風（困難）に直面しても、自ら奮い立たせ、最後まで粘り強く取り組むこと、すなわち現在から未来に向けての様々な状況を読み取って、その方向に向けて突き進む様を表しているそうです。



馬にまつわる縁起の良い言葉には「馬九行九（うまくいく）」は、何事も順調に進むようにという願いが込められている言葉です。また「左馬」は（うまくいく）に通じ、福を招くとされています。商売繁盛や学業成就にも?がるそうです。

### ◇ “哺乳類の一生は五億回の呼吸である・・・本川 達雄”

『ゾウの時間・ネズミの時間』という本が出されたのは、もうだいぶ前になります。内容としては、人間の一生を生きた年数で数えるのが世の習わしです。「あの人は百歳まで生きたから素晴らしい」とかいう評価がされますが、人の生きた価値は、生存期間の多寡ではありません。しかし、人は長く生きることを心の中では望んでいるというものです。

この『ゾウの時間・ネズミの時間』という本で、ゾウは長命の動物として知られています。逆にネズミは短命な動物だそうす。体が大きいから長生きするわけではないそうです。哺乳類動物の一生は、ほぼ五億回の呼吸で終わるそうです。つまりゾウは、ゆっくりと長い呼吸をするが、ネズミは慌ただしく呼吸をするそうです。すなわち、動物に与えられた生涯五億回の呼吸数を、素早く使い切ってしまうから短命であるらしいということのようです。「人生百年時代」などという言葉をよく耳にしますが、人間にも生涯に与えられた五億回の呼吸という枠があります。だとすれば、息せき切って暮らすより、ゆっくりと長い呼吸をして、持ち分を長く使うのが長生きのコツではないでしょうか。古くから、ゆっくりと深く長い呼吸をすることが教えられてきました。しかし、そのような修行としての呼吸とは別に、過酷な人生を長く、安らかに生きるためには、五億回の呼吸の持ち分を大切に使うことが重要のようです。限定されていると思えば、ひと呼吸ひと呼吸がとても貴重なものに思われてきました。

年の始めから、人生論を語ってしまいましたが、私自身一日一日を大切に過ごしていきたいと感じています。島民の皆様も午年（うまどし）にちなんで、躍動する年になることを願っております。

### ◇ 高校入試に向けて！「15歳の旅立ちを目指して」

今年も現在7つの学園に14人の受験生がいます。正月明け早々に私立の入学試験があり、合格した生徒もいます。鹿児島県外からの山海留学生もいるので、それぞれの県によって入学試験の期日は様々です。私立高校を第一希望にしている生徒もいますし、3月の公立高校の入学試験を最大の目標にしている生徒もいます。

船の都合で受験に間に合わないということがないように、教育委員会としても、役場の担当課や学校と緊密に連携をとりながら、「15歳の春」をつかみ取れるように、最大限の協力・努力をしていきたいと思ひます。受験生の吉報を祈っております。

## 十島村で学ぶ

### 【正行さんありがとう】

小宝島学園4年 小谷兼之佑

小宝島生活の二年目がスタートしました。二年目は、地域の正行さんが里親になり、いっしょに生活することになりました。最初は少し不安でした。ご飯のこと、ゲームのこと、起きる時間や寝る時間のことなどです。

でも、心配はいりませんでした。ご飯はおいしいし、やるべきことをすれば自由に過ごせます。また、温泉に行って、星や月のこと、その他の学習していることも教えてくれます。毎日楽しく過ごせています。

そんなお世話をしてくれる正行さんにお礼がたくて文化祭のトカラ科発表の題材は、正行さんが働いている「牧場の仕事」にしました。牧場に行って、牛の写真をとったり、インタビューをしたりしました。インタビュー内容は、一日の主な仕事、牛の売り方、子牛が生まれた時の仕事、耳の番号の意味などです。その内容は、ぼくの知らないことばかりでした。例えば、「耳の番号」は人間のこせきと同じで、牛のマイナンバーカードみたいなものなのです。その他にもたくさんの発見がありました。インタビューをして、わかったことを写真と文章にしてまとめました。また、正行さんには内緒で、手紙を書きました。内容は、優しく見守り、成長させてくれたこと、牛の世話を経験したこと、分からないことは、すぐに教えてくれたこと、海で泳ぎ方を教わったこと、温泉につかりながら星のことや月のことを教えてくれたことなど、たくさんのことに対してのお礼と牧場の手伝いも頑張りたいという内容です。

ある日、正行さんが島の暮らしについてテレビの取材を受けました。テレビ放送されぼくのこと話してました。「あの子は絶対、成功するよ。大きくなったら、この島のことを思い出してほしいね。」という内容です。

そんなことを言われているなんて思ってもいりませんでした。成長した姿を見せにこの島に帰ってきたいと思ひました。

ぼくは、来年もこの島にいたいので、もし、来年も一緒に生活できたら、感謝の気持ちをたくさん伝え、正行さんとたくさんの思い出をつくっていきたくたいです。



## 初参加 鹿児島地区子ども会大会

鹿児島地区（日置市、いちき串木野市、三島村、十島村）子ども会大会が12月にいちき串木野市で開催されました。三島村、十島村の子ども会は会場への往復の時間などから、これまで1度も参加をしていませんでした。

今回、会場となるいちき串木野市アクアホールにインターネット回線を準備していただきリモートによる大会参加をすることができました。当日は、平島子ども会と宝島子ども会が参加。

オーストラリアホームステイ体験について宝島子ども会より発表がありました。大会の講評において、十島村の子どもたちが参加できたことが大きな成果となったという言葉がありました。

また、諏訪之瀬島子ども会は県の優良少年少女団体表彰もありました。



しまどうふのひみつした  
平島学園 2年 日高 うみ

とても楽しみにしていた、しまどうふづくりがありました。しまの方に手つだってもらいました。

とうふと、竹のまぜぼうのつくり方を教えてもらいました。たいらじまのとくべつなとうふをつくるざいりょうは、とてもきれいな海水です。東のはまといところからとります。

つぎにだいじなのは、竹のまぜぼうです。どうしてかという、それがとうふのあじになるからです。

しまどうふは、はしてつかんでもくずれません。ふつうのとうふよりかたくて、おいしいです。ほんのり竹のあじがします。

海水を入れた後に、すぐできたそぼろどうふが、とてもおいしかったので、先生にもすすめました。先生が「おいしい」と言ってくれたのでうれしかったです。来年のしまどうふも、おいしくつくりたいです。

## 十島村二十歳の集い



十島村二十歳の集いが成人の日（1月12日）に村役場にて開催されました。当日は、リモートで各島に式典の様子を配信しました。

会場参加は1人でしたが、多くの島民の方々に見守られた二十歳の集いとなりました。

参加者の抱負は「広報トカラ」に掲載されます。

多くの村民の皆様の御視聴ありがとうございました。



宝島 記念写真

## 【平島学園からのメッセージ】

平島学園 教諭 中川瑞希

平島に赴任して2回目の冬がやってきました。南の島なので暖かいだろうと思ひていましたが、平島は大変風が強く寒いです。島民の方々とやっと交流ができるようになってきたのに、残り1年だと思ひると月日が経つのは早いです。

昨年度、赴任した当初はあらゆる面で生活環境が変わったので戸惑いが大きく、ガス1つお願いするものとても緊張するものでした。今では、ガスの支払いに行った際に世間話ができるようになりました。島での生活は不便ですが、船便を考えて見通しを立てる工夫した生活は、楽しいものだと感じています。長期休業で鹿児島市内に行くと思ひ便利だと思ひる反面、少し不便でみなさんと協力している島の生活もいいなと感じます。平島でのゆったりした生活のお陰で趣味にガーデニングが仲間入りし、両親も大変驚いていました。残り1年、平島で過ごさないと出来ない経験をたくさん楽しみ、教員生活を有意義なものにしたいと思ひます。